

研究の概要

20 21 年 10 月 22 日

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名：	短時間媒精で胚発生は改善するか
代表研究者	生殖技術部門 渡部茉美
研究の目的：	ヒトの生殖補助医療における一般体外受精では、卵子を卵丘細胞や精子と長時間共培養するため、卵丘細胞や精子由来のホルモンや活性酸素種などによる卵子へのダメージが懸念されます。通常、精子は媒精後2～3時間で卵細胞膜に到達できることから、媒精時間を短縮しても受精成績は保たれると考えられます。受精率を低下させない程度に媒精時間を短縮することで卵子へのストレスを軽減できれば、より良質の胚を獲得できる可能性があります。本研究では短時間媒精の胚発生への影響と短時間媒精が有効な症例の検討を行います。
調査データ該当期間：	20 20 年 9 月 17 日 ～ 20 21 年 5 月 29 日
研究の方法 (使用する試料/情報等)：	同意を得て採卵し、10個以上の卵子に一般体外受精を実施した51症例を対象とし、運動精子濃度が10万/mlになるよう媒精しました。各症例の卵子を約半数に分け、媒精後3時間(3h群)と20時間(20h群)でそれぞれ裸化・培地交換し、両群ともに媒精後20時間で受精確認を行いました。各群の受精率、第二分割までの正常分割胚率、胚盤胞(BL)到達率と凍結可能BL率(Gardner分類 BL3BC以上)を比較しました。さらに20h群のBL率が50%以下の症例を胚質不良症例(17症例)とし、同様に比較しました。
個人情報の取り扱い：	研究に用いる患者個人情報の保護、プライバシーの尊重に努力し最大限の注意を払います。患者試料を分析する際には、連結可能匿名化を行います。また試料の分析から得られる情報についても、厳重な管理とセキュリティ体制の整備を徹底し、連結可能匿名化を行い符号のみで取扱いますので、個人情報は伝わりません。
本研究の資金源 (利益相反)：	利益相反状態はありません。
お問い合わせ先 ：代表電話 ：担当者(部門・氏名)	IVFなんばクリニック 06-6534-8824 生殖技術部門 渡部茉美
備考	